

令和8年 10月2日

予察情報8-14

病害虫発生予察情報 第7号

富山県農林水産総合技術センター所長

10月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名				病害虫名	発生量	作物名				病害虫名	発生量		
大豆				紫斑病	やや多い	果樹				黒星病	やや多い		
野菜				白ねぎ	さび病					少ない	ハマキムシ類	多い	
					軟腐病					多い	ナシヒメシンクイ	多い	
					黒斑病・葉枯病					並	カイガラムシ類	少ない	
					ネギアザミウマ					やや多い	ぶどう	べと病	少ない
					ネギハモグリバエ					並		黒とう病	少ない
					シロイチモジヨトウ					多い	かき三社	炭疽病	やや少ない
					野菜全般					ハスモンヨトウ		並	フジコナカイガラムシ
タバコガ類	やや多い	もも	せん孔細菌病	並									
果樹				果樹全般	果樹のカメムシ類					並	チューリップ	球根腐敗病	多い
					りんご	褐斑病	並	皮膚病	やや多い				
				炭疽病		並	花き全般	ハスモンヨトウ	並				
				カイガラムシ類		少ない		タバコガ類	やや多い				
				シンクイムシ類		やや多い							

発生量	発生時期
多い : 平年比 141%以上	早い : 平年値より 6 日以上早い
やや多い : 平年比 121%以上 140%以内	やや早い : 平年値より 3～5 日早い
並 : 平年比 80%以上 120%以内	並 : 平年値を中心として前後 2 日以内
やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内	やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い
少ない : 平年比 59%以下	遅い : 平年値より 6 日以上遅い
予報の根拠中の (+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(－) : 少なくなる要因 (早発) : 発生が早くなる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。	

I 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 10 月 26 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 10 月 26 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
 - ・ 刈遅れは発病を助長するので、適期に収穫を行い、速やかに乾燥する。



図 1 紫斑粒

II 野菜

1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 9 月 25 日調査の発病株率は 0 %で平年 (0.3%) 並に低かった。(－)
 - ・ 10 月 26 日にかけての気温は高いと予想されている。(－)
 - ・ 10 月 26 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 低温期に発生が多いので、薬剤は予防散布に努める。系統の異なる薬剤をローテーションで使用するとともに、収穫前日数に留意する。
 - ・ 防除指針：100～101 ページ参照



図 2 さび病罹病葉
(夏孢子)

2 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 9 月 25 日調査の発病株率は 5.6%で平年 (2.2%) より高かった。(＋)
 - ・ 10 月 26 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 10 月 26 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
 - ・ 発病株は速やかに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分する。
 - ・ 防除指針：102 ページ参照

3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 9月25日調査の発病株率は8.0%で、平年(10.6%)よりやや低かった。(－)
- ・ 10月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ さび病やネギアザミウマ、ネギハモグリバエ等の病害虫の被害は本病の発生を助長するため、他の病害虫を含めて計画的に薬剤防除を実施する。
- ・ 防除指針：101 ページ参照



図3 黒斑病被害葉

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ 9月25日調査の被害株率は50.4%で、平年(53.4%)並であった。(±)
- ・ 10月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・ 防除指針：103 ページ参照



図4 ネギアザミウマ被害葉

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 9月25日調査の被害株率は2.4%で、平年(24.9%)より低かった。(－)
- ・ 10月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・ 防除指針：102 ページ参照



図5 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫の食害(右)

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の累計誘殺数は310.2頭で、平年227.7(頭)よりやや多かった。(+)
 - ・10月26日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
 - ・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図6 中齢幼虫(左)と被害葉(右)

(3) 防除対策

- ・ほ場を定期的に確認し早期防除に努める。中～老齢幼虫はネギの葉身内に侵入し、薬剤の効果が低くなるため、若齢幼虫期までに防除を実施する。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・令和8年6月12日発表の病害虫発生予察注意報第2号、防除指針:103ページ参照

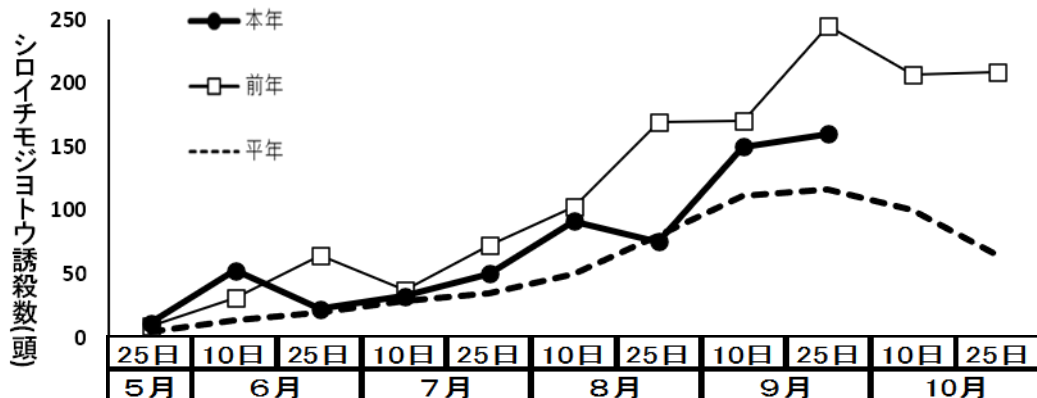


図7 フェロモントラップにシロイチモジヨトウ誘殺数の推移

7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・フェロモントラップによる8月6半旬～9月4半旬の累計誘殺数は159頭で平年（402頭）より少なかった。（－）

・10月26日にかけての気温は高いと予想されている。

（＋）

・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

・防除指針：71～129 ページのハスモンヨトウの項参照



図8 ハスモンヨトウ幼虫

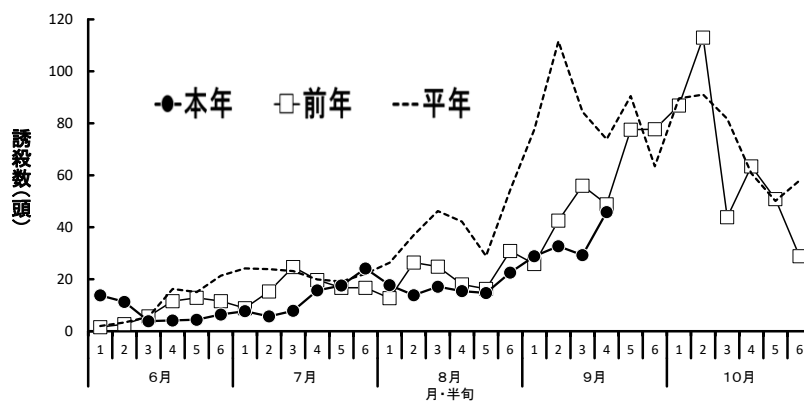


図9 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

8 タバコガ類

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の累計誘殺数はタバコガが25頭で平年（40.7頭）よりやや少なく、オオタバコガは97頭で平年（73.7頭）よりやや多かった。（±）

・10月26日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）

・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

・令和8年7月14日発表の病害虫発生予察注意報第4号（オオタバコガ）参照

・防除指針：71～131 ページのオオタバコガの項参照

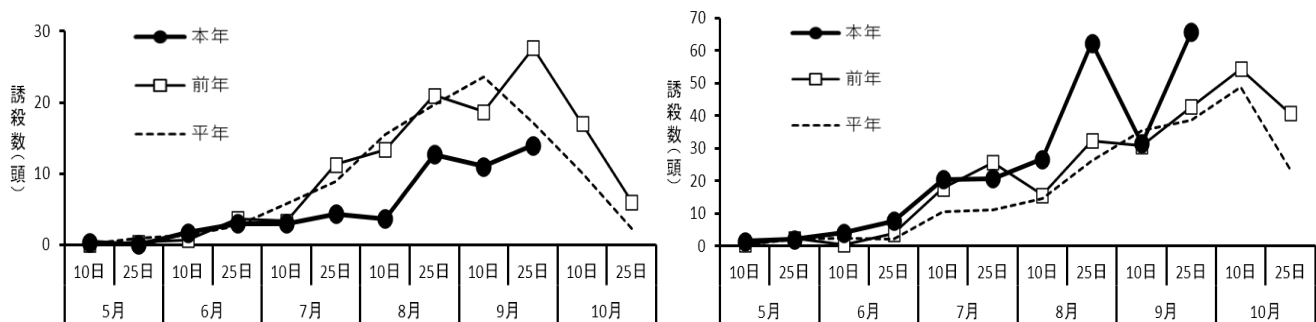


図10 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移（左：タバコガ 右：オオタバコガ）

Ⅲ 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる 8 月 4 半旬～9 月 3 半旬の累計誘殺数は 0.6 頭で平年（2.8 頭）より少なかった。（－）
- ・10 月 26 日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）

(3) 防除対策

- ・令和 8 年 5 月 21 日発表の病虫害発生予察注意報第 1 号参照。
- ・防除指針：りんご 144、148～149 ページ、日本なし 156、160～161 ページ、かき 171～172 ページ



図 11 チャバネアオカメムシの成虫（左）と卵（右）

2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は平年並である。（±）
- ・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・主枝や亜主枝から発生している新梢を適宜整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い薬剤の到達性を高める。
- ・発生の多い園地では、り病落葉による病原菌の越冬密度を下げるため、「ふじ」の収穫前に落葉処理（園地外に持ち出し処分、乗用草刈機による粉碎等）を徹底する。
- ・防除指針：140～142、147ページ参照



図 12 褐斑病の初期病斑（左）と進行した病斑（右）

3 りんごの炭疽病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は平年並である。（±）
- ・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・防除指針：141～142、147 ページ参照



図 13 炭疽病のり病果

4 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：143～144、148～149 ページ参照



図 14 カイガラムシによる被害果

5 りんごのシンクイムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによるナシヒメシンクイの8月4半旬～9月3半旬の累計誘殺数は80.8頭で平年(56.1頭)よりやや多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：143～144、148～149ページ参照

6 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量はやや多い。(＋)
 - ・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図 15 黒星病の秋型病斑

- (3) 防除対策
 - ・芽基部感染による病原菌の越冬密度を下げるため、10月上中旬から、10～14日間隔で2回秋季防除を実施する。また、発生の多かった園地では、11月上旬に殺菌剤の追加散布を実施する。
 - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・り病落葉による病原菌の越冬密度を下げるため、落葉処理(園地外に持ち出し処分、乗用草刈機による粉碎、ロータリによる土壌すき込み等)を徹底する。
 - ・防除指針：152～155、159 ページ参照

7 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬の累計誘殺数は9.6頭で平年(2.4頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：155～156、160～161 ページ参照

8 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬の累計誘殺数は86.8頭で平年(21.4頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：155～156、160～161 ページ参照

9 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
- (3) 防除対策
 - ・防除指針：155～156、160～161ページ参照



図 16 ナシマルカイガラムシによる被害果

10 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
 - ・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・収穫後に銅水和剤又は硫黄・銅水和剤を散布する。
 - ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害落葉は集めて園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：163～166ページ参照

11 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
 - ・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害枝や棚線に残っている巻きづるや穂軸基部(なり跡部)は除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：164～166ページ参照

12 かき(三社)の炭疽病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量はやや少ない。(－)
 - ・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・防除指針：169～171ページ参照

13 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬の累計誘殺数は415頭で平年（514頭）よりやや少なかった。（－）

(3) 防除対策

- ・10月上旬に主幹や主枝の基部に古布や新聞紙等を巻きつけ（バンド誘殺）、12～1月にこれらを外し、巻きつけた部分の粗皮を集めて処分する。
- ・防除指針：169、171～172ページ参照



図17 フジコナカイガラムシの雌成虫

14 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量は平年並である。（±）
 - ・10月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・発生の多かった園地では、病原菌の越冬密度を低下させるため、10月上旬にICボルドー412（30倍）を追加散布する。
 - ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412（30倍）を散布する。
 - ・防除指針：174～175、178ページ参照

IV 花き・球根

1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・一部で貯蔵球根に球根腐敗病の発生がみられている。（＋）
- (3) 防除対策

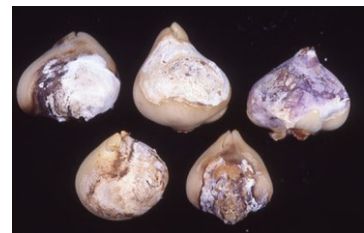


図18 球根腐敗病り病球根

- ・り病球を除去するなど種球の選別を徹底する。
- ・ベンレート耐性菌が確認されているので、スポルタック乳剤など耐性菌の確認されていない剤を用いて、使用方法を守り、植付け前の球根消毒を行う。
- ・地温の高い時期の球根の植付けは発生を助長するので、地温が15℃以下になる時期の植付けに努める。
- ・防除指針：192ページ参照

2 チューリップの皮膚病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・一部で貯蔵球根に皮膚病の発生がみられている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・植付け前の球根消毒を行う。ただし、フロンスайд水和剤とスポルタック乳剤を混用すると薬効が落ちるため、2剤の組み合わせての使用は避ける。
 - ・防除指針：192 ページ参照



図 19 皮膚病り病球根

3 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる 8 月 6 半旬～9 月 5 半旬の累計誘殺数は 159 頭で平年 (402 頭) より少なかった (図 9)。(－)
 - ・10 月 26 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・10 月 26 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・防除指針：202～220 ページのハスモンヨトウの項参照

4 タバコガ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる 8 月 6 半旬～9 月 5 半旬の累計誘殺数はタバコガが 25 頭で平年 (40.7 頭) よりやや少なく、オオタバコガは 97 頭で平年 (73.7 頭) よりやや多かった。(±)
 - ・10 月 26 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・10 月 26 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・令和 8 年 7 月 14 日発表の病虫害発生予察注意報第 4 号 (オオタバコガ) 参照
 - ・防除指針：201～220 ページのオオタバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

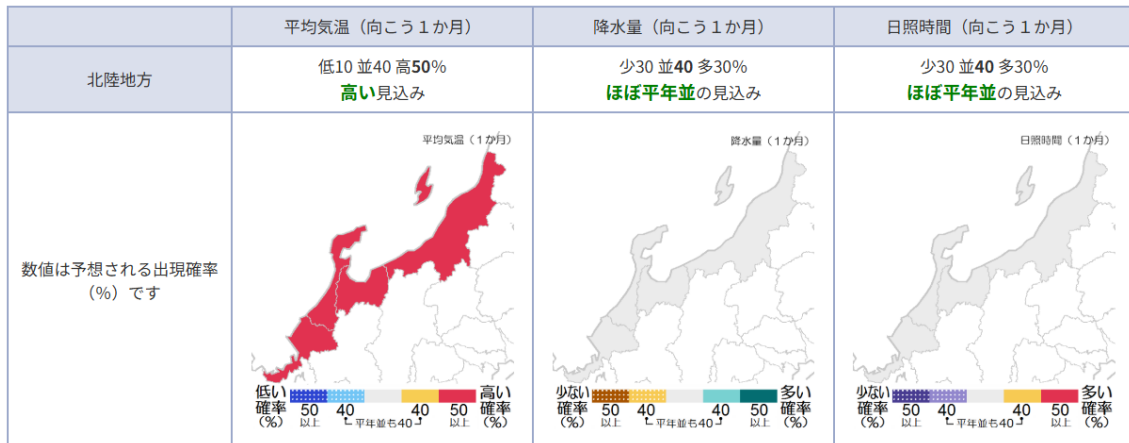
○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

北陸地方 1か月予報
(予報期間 9月26日から10月26日)

9月25日
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。
- ・天気は数日の周期で変わるでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

